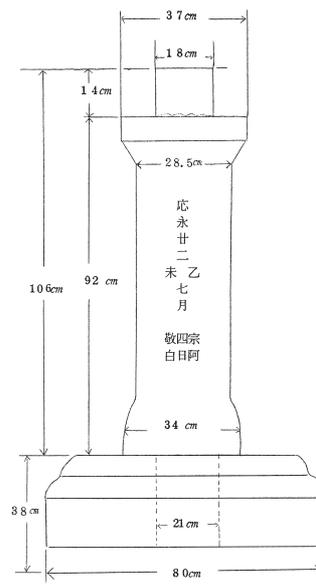


47 おおさわむらきゅうちようめいじにおうどうおうえいざいめいせきちゆう
大沢村旧長命寺二王堂應永在銘石柱



指 定 市有形文化財 昭和54年 9 月25日
所在地 大 沢
所有者 長 命 寺



旧長命寺は平安時代中期の開創と伝えられ、多くの堂塔伽藍^{がらん}を備えた大寺院であったが、天正10年（1582）伴野氏の支城荒山城が、依田信蕃に攻められて陥落した際に、兵火にあって全焼した。

もと大沢にはいくつかの堂があったが、現在の二王堂はその中の一つで、旧長命寺の仁王門があった場所に建立されたので二王堂とよばれている。

石柱は二王堂内正面の、作りつけ須弥壇^{しゅみだん}の床下^{しほ}にあって、天正の兵火から逃れえた、旧長命寺唯一の遺物であると推定されている。残欠ではあるが、現在知られる市内の在銘石造物としては、最も古い貴重なものである。

石質は本地方産の安山岩で、形状・法量、ならびに銘は上図のとおりである。

- 一、形態 正方形に近い角柱（但し上部、下部に開いている）
- 二、石質 この地方普通の切り石（安山岩）